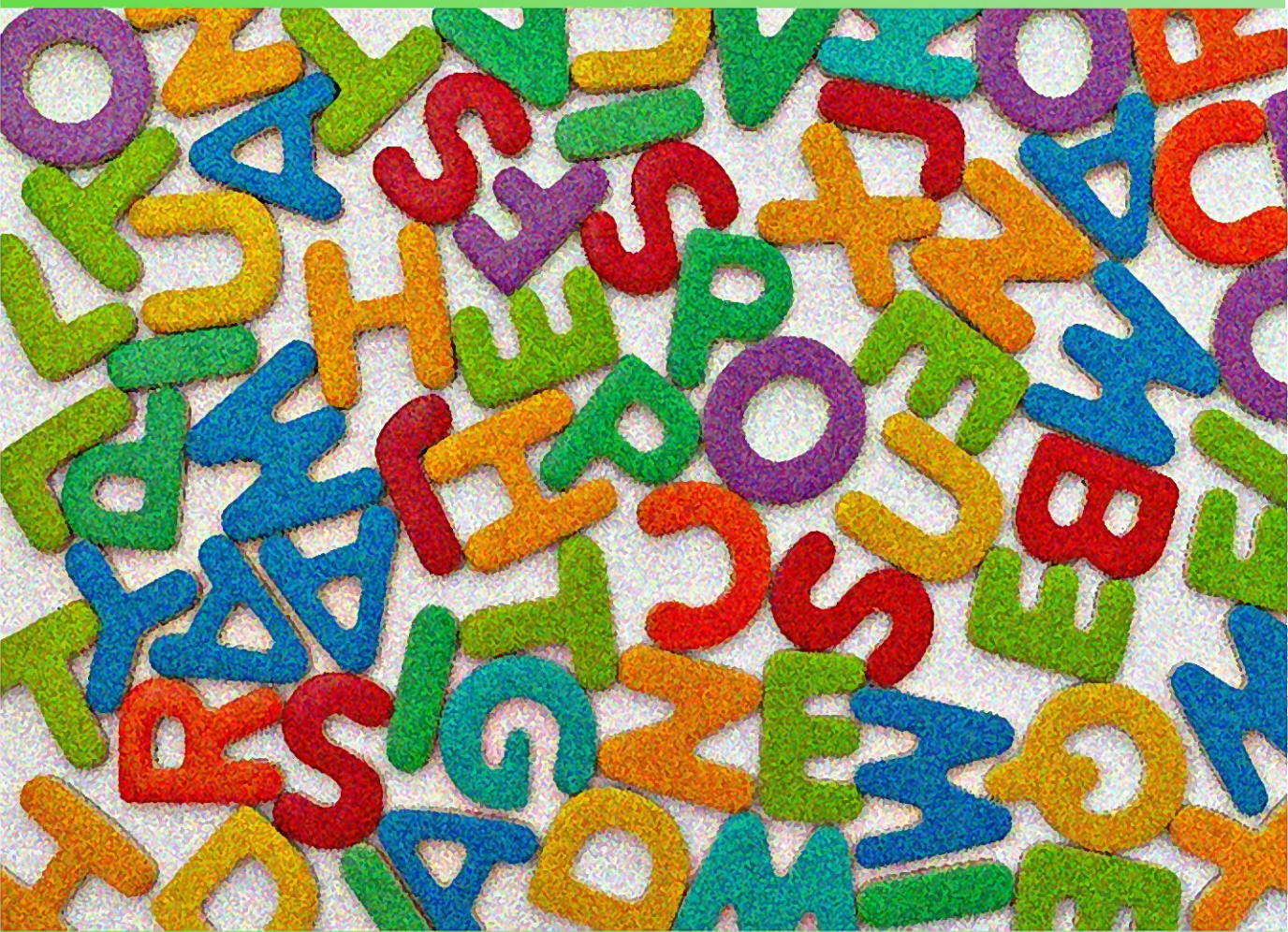


カルメル

靈性センターニュース



2023年2月

394号



2023年2月号 【教会からの巻頭のことば】

## 「イエスにお目にかかりたいのです」(ヨハネ12章21節)

教皇フランシスコ 回勅『兄弟のみなさん』  
第三章「開かれた世界を描き生み出す」より

人間は、「あますことなく自分を与えないかぎり」、自己実現も成長もなく、充足も得られないように造られています。他者との出会いがなければ、自分の真の姿すらも徹底して知ることはできません。「わたしは他者と内面的に交わるほど、……私自身とも実際に交わる」のです。このことが、なぜ人は、愛する具体的な顔がなければ、生きる価値を体験できないのかを説明しています。ここに、真の人間存在の秘密があります。なぜならば、「いのちがあるのは、きずな、交わり、兄弟愛のあるところです。真のつながりと、実直な結びつきの上にあるなら、いのちは死よりも強いのです。それとは逆に、自分は自分にのみ帰属し、孤島のように生きているのだとうぬぼれるなら、そこにいのちはありません。そうした姿勢には、死がはびこっています」。

### 超え出る

愛は、各人の心の奥底から出てきずなを生み、人を自分自身から他者へ向けて抜け出させるときに、存在を広げます。わたしたちは愛のために造られ、一人ひとりの内には、「ekstasis（脱魂）の法則というべきもの…すなわち、…他の人の中により完成した実存を見いだすために、自己の「外へ歩み出る」ものがあるのです。このため「いかなる場合においても、人間はこの事業をなし遂げないといけません。すなわち、自分自身から抜け出すことです」



## 目次

教会からの巻頭の言葉	1
目次	2
心の泉	3
カルメル会の企画案内	23
東京	24
京都	28
諸所の企画案内	31
郵送お申込みのご案内	36
あとがき	37

# 心の泉



宇治カルメル会修道院



## 第三卷

### 第五十三章 地上のものに従う者の上には、神の恵みが下らない

#### 1 主

《子よ、私が与える恵みは貴重なものだから、世俗のことや地上の楽しみと混同することをゆるさない。恵みがそそがれることを望むなら、そのさまたげとなるすべてを捨てなければならない。ひそやかに生き、ひとりであることを好み、誰ともことさら話をしようとせず、潜心と清い良心を保つために、熱心に神に祈りなさい。この世のすべてが空しいと考え、外部のどんなおこないよりも、神に仕えることを重視しなさい。この世のはかない事柄を楽しみながら、同時に私に仕えることはできないからである。あなたは知人や親戚から、離れなければならない。そして、人間からの慰めをすべて犠牲にしなければならない。聖なる使徒ペトロは、「この世においては他国人であり、旅人であるかのように思いなさい」(一ペトロ2・11)と、キリストの弟子たちに勧めている。

#### 2 完全な勝利

この世にあって何事にも縛られていない者は、死が訪れる時、どれほど安らかさをもつであろうか？しかし、まだ弱い者がこのように離脱しきるのは困難である。そして、この世の動物的な人間(一コリント2・14 参照は、心の自由を悟れない。真に霊的な人間でありたいなら、他人や親戚ともつき合わず、誰よりも自分自身に警戒しなければならない。完全に自分に勝つことができたら、ほかのものを征服するのは容易であろう。自分に勝つことだけが、真実の勝利である。感覚を理性に、理性をすべてのことにおいて服従させるほど、自分を征服し得たものは、自分自身の勝利者であり主人である。

#### 3 自分に死ぬ

あなたが、このように <sup>いただき</sup>頂に登ろうと思うなら、自分と、自分個人の物質的なものに対する隠れた邪心を根絶するために、斧を用いなければならない。人間は自分自身に執着しすぎている。そこから、ほとんどの根絶すべき悪が生じている。それに打ち勝ち滅ぼし尽くすなら、すぐに深い平和と安らぎを味わえる。しかし自分にまったく死にきるために自分を脱ぎ捨てようと努力する人は少ないから、自分自身にまといつかれ、霊をもって飛翔することができなくなる。私と共に自由に駆け上がろうとする者は、自分の悪いよこしまな愛を滅ぼし、どんな被造物も望まず、どんなものにも愛情を抱いてはならない。》

# テレーズ生誕 150周年



2月



神の慈しみへの

果てしない望みは

わたしの宝です

テレーズ

テレーズは生誕150周年を機に、この混迷する21世紀に文化・教育・平和に貢献している女性として、ユネスコの2022年～2023年の2年間認定され、記念しています！

「まもなく、わたしの使命が始まろうとしています。  
わたしが愛したように、  
人々に神さまを愛させる使命が。  
人々にわたしの“小さな道”を示す使命が！

「わたしは一つの、ほんの小さな実です。そこから  
何が出てくるか、人々はまだわからないでしょう。」



15歳で観想会カルメル修道院に入り、24歳で天逝するまでテレーズは「幼子の道」と呼ばれる父なる神の慈しみの愛への絶対的信頼を生き抜きました。死後テレーズの生きた「幼子の道」の恵みは全世界に降り注がれ、たちまちのうちにアジアへの偉大な宣教師フランシスコ・ザビエルと共に「宣教師の守護聖人」に挙げられています。

教皇聖ヨハネ23世はためらうことなくテレーズを「現代のもっとも偉大な聖人」と呼び、1997年(教皇聖ヨハネ・パウロ2から)には教会博士の称号を授与されました。

2月の祈りの意向として：

2月11日(ルルドの聖母)、22日(灰の水曜日)、26日には四旬節第1主日を祝います。

何も代り映えのしない一日かもしれませんが、でも「善を自分の回りに蒔かなければなりません。でも芽が出るかどうか心配することなく」というテレーズの言葉を思い出して。

伊従 信子 (いより のぶこ)

ノートル・ダム・ド・ヴィ

## 創造主への賛美（61）

くのり  
九里 彰

前回、「創造主への賛美」は、「まことの謙遜」がない限り、心からの賛美とはならず、人の目を気にし、自分を誇ろうとするパリサイ派的な儀礼的な祈りとならざるを得ないということを描いた。そこで、心からの祈りとなるためには、「惨めさと無にすぎない」という自己認識（真理）が不可欠となる。実際、自分が赦されていることを知れば、神への感謝の心が湧き上がるであろうし、何か良いことができたならば、自分の力ではないことをよく知っているので、神を賛美したくなるはずである。

祈りの原点とも言うべきこのような神の前での自己認識は、すでに指摘してきたように、自己嫌悪とか自己卑下をもたらすものではなく、自己解放をもたらすものである。それまで他人からの評価、他人の目を絶えず気にしていたちっぽけな自分から解放されるからである。もはや自分が問題でなくなるといってもよい。自他を比較し、絶えず優劣を意識し、熾烈な競争をくりひろげているこの世から解き放たれ、無限の神の世界、禅的に言えば、無我、無心の世界へと導かれるのである。

それは、「幼子の世界」と言ってもいいかもしれない。「いったいだれが、天の国でいちばん偉いのでしょうか」と弟子たちがイエスに尋ねた時、イエスは「一人の子供を呼び寄せ、彼らの中に立たせて、こう言われた」。

はっきり言うておく。心を入れ替えて子供のようにならなければ、決して天の国に入ることはできない。自分を低くして、この子供のようになる人が天の国でいちばん偉いのだ。（マタ 18:3-4）

自分の評価を気にし、自分を偉い者にしようとしている大人の意識（この世ではこれがすべてだが）から、無垢な幼子のようになること、それも我が生じる前の乳飲み子のようになるならば、それはまさに神の前に「心貧しい者」となることではないだろうか。この時、その人は、主の平和で満たされ、天の国の幸いに与るのではないかと思われる。それはまた、キリストがニコデモに言われたことでもあろう。

はっきり言うておく。人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。（ヨハ 3:3）



# 十字架の聖ヨハネのこぼれ話 (176)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

## フランシスコの情景

ある時、聖フランシスコは、ペルーシアのレオン修士と、サンタ・マリア・デ・ロスアンヘレスに行きました。冬の季節で、厳しい寒さは二人をひとしお苦しめました。聖フランシスコは少し先に行くレオン修士に呼びかけ、こう言いました。

「レオン修士よ。小さな兄弟たちは全世界に聖性の偉大な模範や大きな感化を与えるとしても、完全な喜びはそういったことにはないということを書きとめ、皆に伝えなさい」。

また少しばかり行くと、聖フランシスコは、再度、彼を呼びとめ、こう言いました。

「おお、レオン修士よ。小さな兄弟が盲者の目を開き、半身不随の人をいやし、悪霊を追放し、聾者を聞こえるようにし、啞者を話せるようにし、さらには、死んで4日たった者を生き返らせたとしても、完全な喜びはそのようなことにはないということを書き記しなさい」。

また少し先に行くと、聖フランシスコは声を張り上げ、こう言いました。

「おお、レオン修士よ。小さな兄弟がすべての言語やすべての学問や聖書のすべてを知り、それによって、将来のことばかりでなく、良心や靈魂の秘密を預言したり啓示したりできるようになったとしても、完全な喜びはそのようなことにはないということを書き記しなさい」。

さらに少し行くと、聖フランシスコを大声で再び彼を呼びとめました。

「おお、レオン修士よ、神の子羊よ。小さな兄弟が天使の言葉を話し、星の軌道や薬草の効能を知り、彼には地上のすべての宝が明らかとなり、鳥や魚やすべての動物や人間の本性を知り、木や石や根や水の属性を知ったとしても、完全な喜びはそのようなことにはないということを書き記しなさい」

(P. 九里訳)

## 年間 第5主日

(マタイ5：13-16)

イエスは呼びかけています。「あなたがたは地の塩である」、「あなたがたは世の光りである」。塩も光もとても大切なもので、いざ無くなると大変なことになりますが、普段その有難みは案外意識されていないと思います。

「地の塩になれ」、「世の光りになれ」。このイエスの呼びかけは、何かすごく立派な人になりなさいという意味では決してないと思います。目立たなくても役に立つもの。意識されていなくても、いざ無くなると困るもの。地味であっても、確かな、意義のある存在になりなさい、ということであろうと思います。

このみ言葉を語る直前、イエスはかの有名な真福八端を述べていました。「心の貧しい人々は幸いである」。「悲しむ人々は幸いである」。「柔和な人々は幸いである」。「義に飢え渴く人々は幸いである」。「憐れみ深い人々は幸いである」。「心の清い人々は幸いである」。「平和を実現する人々は幸いである」。「義のために迫害される人々は幸いである」。(マタイ5・3-10)

「地の塩になれ」、「世の光りになれ」とイエスが語りかけた人々は、この真福八端を直前に聞いていた人たちです。地の塩や世の光りになるとはまさに「心の貧しい人々、悲しむ人々、柔和な人々、義に飢え渴く人々、憐れみ深い人々、心の清い人々、平和を実現する人々、義のために迫害される人々」として生きることなのです。

謙遜な人や柔和な人、憐れみ深い人の存在は確かに光りです。いるだけでその場の雰囲気をも明るくし、皆を安心させることができます。義に飢え渴き正義を行おうとする人や平和を作る人々は、世の中を腐敗から守る塩のような役割を果たしています。

「漆黒の闇に、偉大な預言者たち、聖者が現れる。だがその霊妙な生涯の成り立ちは、不可思議にとどまる。実に、この世の歴史の決定的な出来事は、歴史書には名の刻まれない者らの魂が、実質的に力を及ぼしたもの。そしてわたしたちは、隠されていたすべてが露わになるその日によりやく、自分の私生活に決定的な変化のきっかけを与えた者の魂と出会うのである」とのエディット・シュタインの言葉を引用した教皇フランシスコは、「真実なる歴史は、大勢のそうした人によって築かれている」と述べています。(教皇フランシスコ『喜びに喜べ』8)。

教会の中で尊敬されている有名な聖人はもちろんなのですが、名の知られていない無数の聖なる人々が真実の歴史を築いています。イエスに従い、「地の塩、世の光り」となり、この世界の真実の歴史作りに参加していきましょう。  
(今泉健 神父)

## 年間 第6主日 (A)

(マタイ 5 : 17 - 37)

「あなたがたの義が律法学者やファリサイ派の人々の義に勝っていなければ、  
あなたがたは決して天の國に入ることが出来ない」

聖マタイの福音 5 章から 7 章の山上の説教は新しい時代の基調であり、神の國の憲法とみなされているものです、これはイエスの就任説教です。本日私たちは新約聖書の真髓を読みます。ただ十戒を守るだけを超えて進みます。

本日の福音ではイエスにとって、聖、正義、公正は神からの恵みです。人間の役割はこれに忠実であること、その恵みに協力することです。イエスは、弟子たちに新しい道徳の規準を与えています。私は律法を滅ぼすために来たのではなく、その内的な意味を明らかにして完成するために来たのである、とイエスは言われます。それはイエス自身が律法の与え主であり、真の神の自己実現だからです。イエスは、殺人、不倫、離婚、偽りの誓いや、復讐、そして隣人への愛についての律法の根本に至る道を示します。

山上の説教は、イエス・キリストを万全に生きることについてのものです。私たちの内なる永遠の生命を育むことについてです。このような生活を生きることは、まさに厳しい要求です。外面的な罪や殺人を避け、不倫や偽りの誓いを避けるだけでは十分ではありません。私たちは、心の中にある殺人や、私たちの怒り、憎しみ、過去の痛みなどから生じる全てのものと闘わなければなりません。憎しみ、怒り、復讐は、私たちの心の中にあるキリストの命を破壊します。心の中に憎しみを抱いているならば、私たちはキリストの中で十全に生きることはできません。私たちの中にあるキリストの生命、真の生命を生きる能力の妨げとなります。私たちは、神を愛すると同時に人を憎むことはできないのです。他者との関係に正直でなければなりません。他者への愛が真摯であり、利己的になりませんように。

私たちは、会話と表現に自由を与えられています。人間は生命と死である前には、どちらを選んででもそれが与えられます。ですから、イエスの生命と共に、十全に生きるためにキリストの生命を選びましょう。道であり、真理であり、命であるイエスに従って歩みましょう。

(Sr. Paulina)

## 年間 第7主日

(マタイ5：38-48)

先月下旬、年間第四主日から、福音朗読は山上の説教の箇所が続いて読まれますが、今日は、「復讐してはならない」と「敵を愛しなさい」という2つのことが語られます。

あなたがたも聞いているとおり、「目には目を、歯には歯を」と命じられている。また「隣人を愛し、敵を憎め」と命じられている…と、群衆たちにイエスは語られました。この様な先祖伝来の掟、すなわち同害によって報復する掟に従って人々は歩んできた、その掟を守ってきた訳ですが、イエスはそうではない、新たな生き方を提示されました。

「手向かってはならない」、「左の頬をも向けなさい」、「上着をも取らせなさい」…と自分に対する相手からの圧迫や要求に対して、それを受け止めてその人と、その相手とともに歩むようにと諭されます。求める者には与えて、借りようとする者には背を向けない様にと。その様な中で、悪人に手向かって、悪い行いに対して、悪い行いで返して、いくのではなく、悪に対して悪で返さないことによって、善を行ってゆくのですね。

「隣人を愛し、敵を憎め」ということについては、聞いている通りにするのはなく、「敵を愛し、自分を迫害する者のために祈りなさい」と言われます。悪を返すのではなく、積極的に愛で返す必要を説かれます。自分を愛してくれる人を愛し、自分の兄弟にだけ挨拶をすることは、徴税人や異邦人、すなわち誰もが普通に行っていることであって、そこから先に進む様にと人々を導かれます。

あなたがたの天の父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい。見倣うべき模範とは一体誰でしょう、それは天の父である神です。分け隔てなく恵みを与えて下さり、愛して下さる。完全なる神に倣って、神の子である私たちは生きる様に招かれているのです。

私たちは父なる神の完全さに倣って、完全な者となる様に目指さなければならぬのですね。神の子とされた私たちが、父なる神、父なる神の子イエスに倣い、神が完全である様に、イエスが歩まれた様に、イエスが愛された様に、歩んでゆくことが、愛してゆくことができます様に。

(Fr. 古川利雅)

## 四旬節 第1主日 (A)

(マタイ4 : 1-11)

四旬節とは、灰の水曜日～聖木曜日・最後の晩さんの夕べのミサ前までの期間をいいます。続いて、最後の晩さんの夕べのミサから復活主日までの「超越の聖なる三日間」において、教会はキリストの受難と死と埋葬と復活を祝います。

本日の福音ではイエスの誘惑について描かれています。イエスは40日間断食し、悪魔から最も過酷な誘惑を受けました。イエスは罪以外の部分で私たちの人間性を完全に帯びていましたので、荒れ野での断食によって人間的な弱さの現実ともろさを体験されました。イエスを注意深く観察していた悪魔は、ここぞとばかりにイエスを誘惑し、従順と忠実さの道からそらせようとしています。しかし、イエスは誘惑に耐えて誘惑する者に打ち勝つ力を持っていました。イエスは、断食の力、祈りの力、そして神のことばの力によって誘惑に抗うことができました。主が受けられた3つの誘惑は、私たちが一人残らず直面する誘惑そのものです。具体的には、①自己中心的に生きたいという誘惑、②神を否定する誘惑、③信仰とキリスト者としての生活を捨てて権力や高い地位等を追い求める誘惑ですが、これらは全部、私たちの人生から神を奪い取ろうとします。

私たちの母なる教会は、誘惑する悪魔と闘い続ける私たちを力づける目的で、40日間にわたる四旬節を設けました。悪の力は、私たちの内におられる神の現存を壊し、私たちが他者に対して神の現存をもたらしことを妨げようとしています。そのため、四旬節は、誘惑とあらゆる悪と闘うための強力な武器を私たちに与えてくれます。四旬節中、特に祈り・断食・ほどこしの3つを実践します。まず、神との一致と隣人との一致をさらに深めるべくもっと祈ることに私たちは招かれています。さらに、間違った選択肢を選びがちな傾向を含め自分自身をもっとコントロールできるように断食をしなければなりません。また、肉体的・精神的な不足を抱える者への慈善のこころを育て、ほどこしをするように私たちは招かれています。この四旬節の間、祈りとつぐないをし、ミサに与り、神のみことばを読むことで、自分たちの悪への傾きに立ち向かいましょう。

(Sr. Paulina)

# いのちの言葉 2月

あなたこそエル・ロイ（わたしを顧みられる神）です。1

（創世記 16・13）

今月の「いのちの言葉」は、創世記からの引用でサラの女奴隷ハガルの言葉です。子をもうけることができないサラは、子孫の確保のために自分の女奴隷をアブラハムに側女(そばめ)として与えました。ハガルは自分が身ごもったのを知り、女主人を軽んじたため、サラから辛い仕打ちを受けることになり、荒れ野に逃げました。まさにそこで、神と彼女の特別な出会いが起こります。彼女は神から、アブラハムになされたものと同じような、子孫繁栄の約束を受けます。生まれてくる子はイシュマエルと呼ばれ、その意味は「神は聞かれた」です。神がハガルの苦悩を受け止め、子孫を与えられたからです。

**あなたこそエル・ロイ（わたしを顧みられる神）です。**

古代世界では、人間が神に近づき過ぎると、生き永らえることはできないと考えられていました。ハガルの言葉はそれを映し出しています。ハガルは神との遭遇に驚くとともに、それでもなお生き延びられたことに感謝しているからです。砂漠という、神との出会いを体験しうる特別な場所で、ハガルは神の愛を体験しました。神の存在を実感し、苦しい状況にある自分を「顧みて」くださった神に愛されたのを感じたのです。それは、ご自分が造られたものに心をかけ、愛で包んでくださる愛でした。

「神は、遠く離れたところにおいて、私たち一人ひとりや人類の行く手に無関心でいる方ではありません。何度も経験していることですが、神はいつも私と共にいてくださいます。私のことは何もかもご存知で、私の考えや喜び、望みもすべて知っておられます。生活の中で会うような心配事や試練も、神は私と共に担ってくださいます」2とキアラ・ルービックも書いています。

**あなたこそエル・ロイ（わたしを顧みられる神）です。**

この「いのちの言葉」は、「私たちは人生で決して一人ぼっちではなく、神はそこにいて私たちを愛しておられるのだ」という確信を蘇(よみがえ)らせ、慰めを与えてくれるでしょう。私たちは時にハガルのように、この地上にあって自分が「異邦人」であるかのように感じたり、重く苦しい状況から逃れるための道を探したりします。そんなとき、私たちは神の存在を信じる必要があります。神と

の関係を保つことこそが、私たちを自由にし、安心させてくれ、いつもやり直せるようにして下さることを確信しましょう。

一人でパンデミックの時期を経験した P さんの話です。

「完全なロックダウンが始まってからというもの、私は家に一人きりです。この体験を共有できる人が物理的に傍(そば)にいない、何とか一日をやり過ごすようにしています。けれども日が経つにつれ、だんだんと気力が失せてしまいます。夜はなかなか寝つけません。この悪夢からもう抜け出せないような気がします。でも、神様に完全に自分を委ね、神様の愛を信じなければならぬと、強く感じています。ここ数か月の孤独な日々、共にいてくださり、慰めてくださる神様の存在を疑うことはありません。きょうだいから届く小さなしるしから、私は一人ぼっちではないのだと感じます。たとえば、オンラインである友人の誕生日をお祝いしたとき、直後にご近所からケーキが一切れ届きました。」

**あなたこそエル・ロイ（わたしを顧みられる神）です。**

神の存在に守られながら私たちも、その愛を伝える使者となれるでしょう。

実際私たちは、他者の必要に目を配り、「人生の砂漠」にあるきょうだいに手を貸し、彼らの喜びや苦しみを分かち合うよう召されています。

大切なのは、私たちを取り巻く社会全体に目を向け続けるよう努めることです。

そして、人生の意味や多くの問いに対する答えを探す人たち — 友人、家族、知人、隣人、仕事仲間、経済的に困っている人、社会的に疎外されている人など — の傍らで、一旦立ち止まって、寄り添うようにしてみましょう。

また、私たち自身が神の愛に出会い、自分の人生の意味を再発見したときの貴重な体験を思い起こし、分かち合うこともできます。

あるいは、一緒に困難に立ち向かい、共に「人生の砂漠」におられる神の存在を発見し、神の助けに信頼して歩み続けることができるでしょう。

パトリツィア・マッツォーラと  
「いのちの言葉」編纂チーム

\*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

1 日本聖書協会『聖書 新共同訳』

2 キアラ・ルービック 2006年7月の「いのちの言葉」より

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: [tokyofocfem@gmail.com](mailto:tokyofocfem@gmail.com) ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

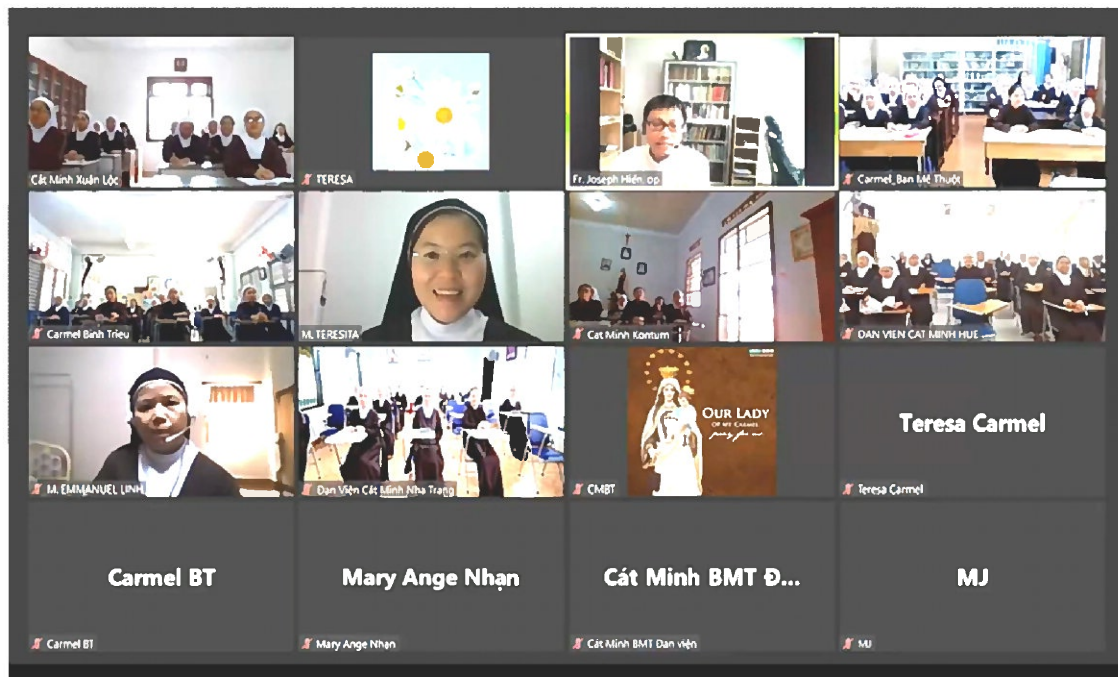
# 跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介しします。

<< Communications (時事通信) >>

2022年12月30日

## ベトナム発：女子跣足カルメル修道女会で新学期開始



ベトナムの女子跣足カルメル修道会、カルメル山の聖母修道院で、有期約束のシスターたちは、2022年11月3日から始まる新学期を喜びのうちに迎えました。

このシスターたちのために、5年半にわたる有期約束課程の貴重な初めの第2期目(2022~2023年)を与えてくださった神に感謝いたします。この学習計画によると、各学期は11月に始まり翌年8月に終了します。女子跣足カルメル修道会の規定(Ratio: コールオランスに準じて改訂され、ベトナムに適用されたもの)に従い、有期約束のシスターたちは10課程(4課程は跣足カルメル修道会に関して、6課程は神学に関して)を学ぶことになっています。

そして、この一連の課程を助けるために、ベトナムの跣足カルメル修道会の司祭たちは、修道会について教え、神学についてはドミニコ会、レデンプトル会とサイゴン大司教区の司祭たちが招かれて教えます。

どうか、父なる神がこの勉学の働きを祝福してくださいますように。そしてカルメル山の女王である聖なる乙女マリアとカルメル会のすべての聖人たちが、わたしたちのために、神にとりなしてくださいますようお祈りします。

(訳・注：小宮山延子)



## 糸巻き棒からペンへ(83)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

私たちは神と一致するように呼ばれており、自分の力だけではできないにせよ、神が私たちの内に働かれるように準備することはできるということを知ることです。神はだれをも拒まれないのですから、信頼をもってその光を求めましょう。

### 自分を知ること

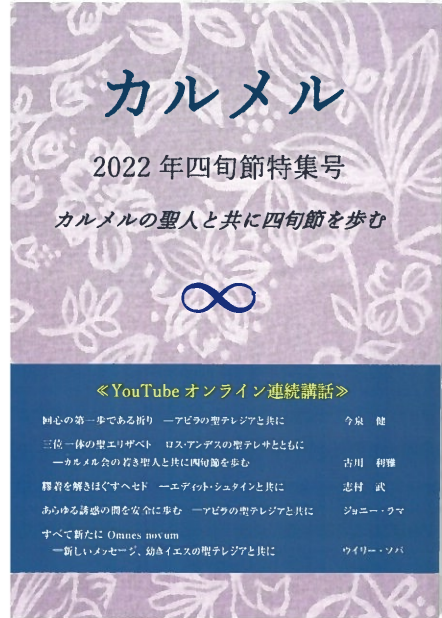
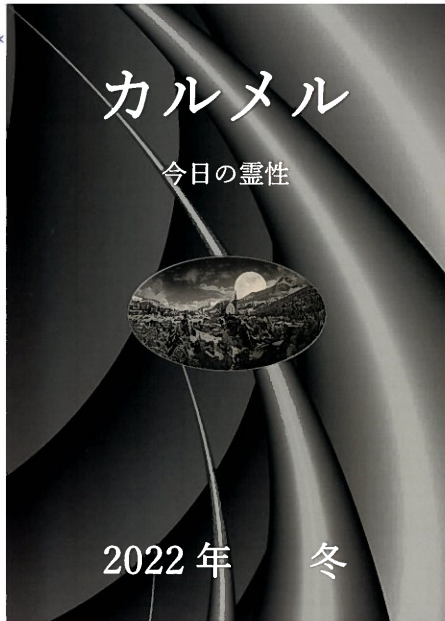
自己認識というものは、本質的なことであると私が言うのを、あなたは驚かないことでしょうか。それも初めのうちだけでなく、あらゆる瞬間において、それは、この道におけるあらゆるご馳走に欠くことのできないパンのようなものです。というのもしばしば私たちは自分自身を知らず、神が私たちの内に備えてくださった偉大な力を知らないのですから。それでは、どのように私たちはそれらの能力を発展させ、実践に移すことができるのでしょうか。

以前お話ししたたとえをもう一度繰り返します。なぜなら、それ以上のたとえが見つからないのですから。つまり、私たちの霊魂は水晶のお城のようなものだと考えてみましょう。そこには多くの部屋があり、その中心に神がお住まいになる中心の部屋があるのです。そこから神の美しさや豊かさや偉大な力がやって来るのです。それらを発展させるために、まず私たちはそれらのことを知らなければなりません。

私たちが自分自身を理解せず、自分が何者であるかを知らないことは、一私たちの責任なのですが、一、些細な過ちでも取るに足らないことでもありません。ある人にどなたですかとたずねることが、あるいはあなたの父親や母親がだれであるか、どこの出身であるかを知らないことは、とても恥ずかしいことではないでしょうか。

(P.九里訳)

# カルメル誌 新刊案内



## 2022年 冬号 No.387

### 道の靈性(続)第四回

旅の挫折を越えて

田畑邦治

### 日々の出来事の中で 神の靈は導く(4)

—テレーズ生誕(1873~1897)—五〇周年を迎えて

伊従信子

### 諸聖人の祭日—聖徒の交わりを信じる

ポーリン・フェルナンデス

### キリストの説かれた 幸いなる道(8)

九里 彰

### 霊的研究会講義録(18)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎

## 2022年 特集号

### カルメルの聖人と共に四旬節を歩む

#### 回心の第一歩である祈り

—アビラの聖テレジアとともに

今泉 健

#### 三位一体の聖エリザベト

ロス・アンデスの聖テレサとともに

—カルメル会の若き聖人と共に四旬節を歩む

古川利雅

#### 膠着をときほぐすへせド

—エディット・シュタインと共に

志村 武

#### あらゆる誘惑の間を安全に歩む

—アビラの聖テレジアと共に

ジョニー・ラマ

#### すべて新たに Omnes novum

—新しいメッセージ、幼きイエスの聖テレジアと共に

ウイリー・ソバ

ご案内 1冊 580円 A5サイズ 50~70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、760円【580円(+送料180円)】程度の献金を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特集号 計 3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com

# 新刊紹介

## 聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus  
小野崎良子 編

## ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた  
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円（税込）

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

中川博道師  
(カルメル会)  
《推薦》

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です（教会憲章 53 番）。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神秘をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださりました。

教友社定価 (1,500 円＋税)

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」（「はじめに」より）。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師（カルメル会）推薦。

### 小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック 宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

### ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

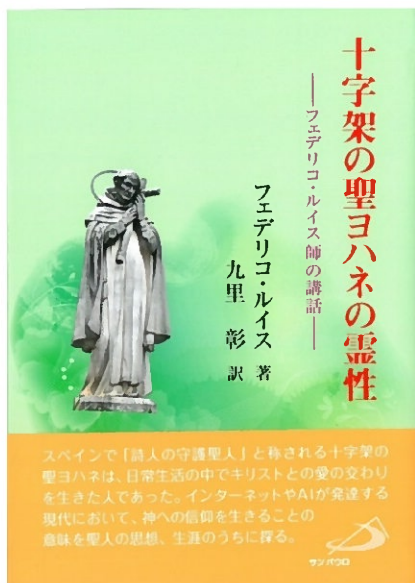
2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。

## 書籍紹介

十字架の聖ヨハネ理解のための

待望の書 翻訳刊行



## 『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話  
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていきます。

### フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

### 九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

# 愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

監訳 九里 彰  
 岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにし

## 第一部 キリスト教の伝統

- 第1章 皆 愚（1）
- 第2章 皆 愚（2）
- 第3章 理性対神秘主義
- 第4章 神秘主義と愛
- 第5章 東方のキリスト教
- 第6章 愛を通して生まれる英知

## 第二部 対話

- 第7章 科学と神秘神学
- 第8章 修徳主義とアジア
- 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
- 第10章 英知と〈空〉

## 第三部 現代の神秘的な旅

- 第11章 信仰の旅
- 第12章 浄化の道
- 第13章 暗夜
- 第14章 〈愛のうちにある〉
- 第15章 花嫁と花婿
- 第16章 一 致
- 第17章 英知
- 第18章 活動
- 第19章 社会活動の神秘主義

ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を習得し、神学博士。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。





# 書籍案内

## 生きる意味

### ●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

#### ———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて  
十字架の聖ヨハネの  
**ひかりの道をゆく**

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】 **287**

**第2版  
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ  
を生き、体験し、確認した教えなのです。  
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの  
教えは現代の人々にも十分適応されます。  
また、神の命を伝え、実践的手段を示して  
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の  
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる  
**いのりの道**

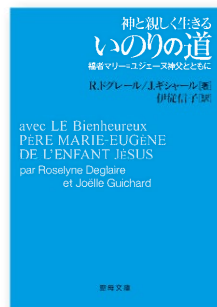
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

**R. ドグレール / J. ギシャル 著**

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 **246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい  
**いのりの道をゆく**

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

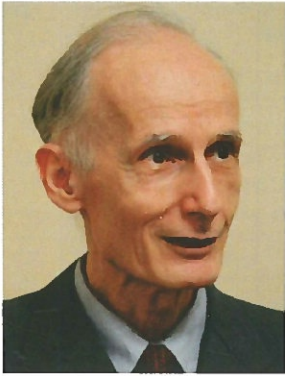
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 **268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

**聖母の騎士社** ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1  
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



## クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN
第1巻	<b>I 超越体験 一宗教論</b> 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	定価(本体+税) 9784862852151 3,800 円+税
第2巻	<b>II 真理と神秘 一聖書の黙想</b> 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的の神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	<b>III 信仰と幸い 一キリスト教の本質</b> 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」とおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	<b>IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論</b> 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	<b>V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践</b> 信仰との関わり合いの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

### ●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イェズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

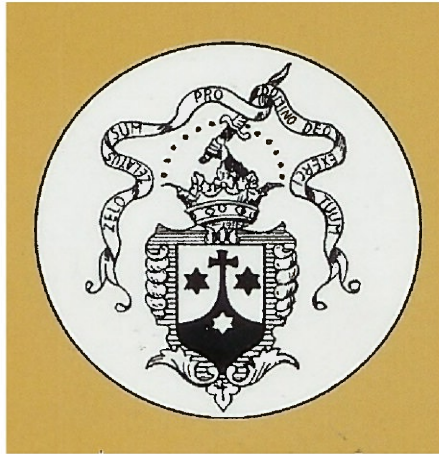
知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷 1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>



## カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

**Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum**

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



## 東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 \*\*上野毛 聖テレジア修道院 (黙想) \*\*

(～2023年3月)

- ・祭日のミサに参加するために  
チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時
- ・聖書深読黙想会(土曜日17時～日曜日16時) 大瀬高司 神父  
2023年  
2月25日～26日
- ・《カルメル会聖人に学ぶ黙想会》(水曜日10時～16時・昼食付) カルメル会士  
2023年  
2月15日 3月15日
- ・キリスト教霊性入門(木曜日10時～16時 昼食付) 志村武 神父  
2023年  
2月2日 3月2日
- ・一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) カルメル会士  
2023年  
3月18日～19日
- ・奉獻生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) カルメル会士
- ・カルメル会召命黙想会(男子)40歳まで (初日16時～最終日16時)  
カルメル会士  
2023年  
2月 4日(土)～ 5日(日)



- \* 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- \* こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- \* 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : [mokusou@carmel-monastery.jp](mailto:mokusou@carmel-monastery.jp)

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>

# 一日黙想会

テーマ：『カルメル会聖人に学ぶ黙想会』

\* 毎月第三水曜日（8月はお休み）

\* 10時～16時 3,500円（昼食付）

<2022年度開催予定日（2022年4月～2023年3月）>

2022年 4月20日 — 5月18日 — 6月15日 — 7月20日  
9月21日 — 10月26日 — 11月16日 — 12月21日  
( \* 第4週 )  
2023年 1月2-5日 以上終了  
2月15日 3月15日

コロナの状況により中止となることもございます。  
当面は少人数(定員10名)での開催とさせていただきます。

\* 当修道院司祭が交代で指導いたします

今泉 健 神父  
ジョニー 神父  
志村 武 神父

お問合せ・お申込み: 〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25  
カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

Tel: 03-5706-7355 Fax: 03-3704-1789  
E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp



## ★★★カルメル会召命黙想会★★★

カルメル会の霊性を生きることとおして教会に生涯を奉げる道があります。聖テレジアや十字架の聖ヨハネらの教えに培われて、人々に祈りと兄弟的な生活を証していく道です。この道に関心を抱き、心に神の呼びかけを感じている方のお手伝いをさせていただきたいと思えます。

指導：カルメル会士

対象：カルメル会の召命に関心のある男子

場所：カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

日時：2022年 ~~4月2日（土）～3日（日）~~ 16時～翌日16時

~~7月9日（日）～10（日）~~ //

~~10月29日（土）～30日（日）~~ //

2023年 2月 4日（土）～5日（日） //

会費：¥5,000（3食付き）

\*お問合せ お申し込み：

カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL.03-5706-7355 FAX.03-3704-1789

Eメール mokusou@carmel-monastery.jp





**宇治カルメル会 黙想会案内**  
(~2023年3月)

**【一般のための黙想】** 中川博道神父  
1泊2日 (土曜 午後5時~日曜午後4時)  
5:30 サルヴェ・レジーナ(修道院)から開始

2023年  
2/18~19

**【聖書深読】** (午前10時~午後4時) 中川博道神父

2023年  
2/11

**【祈りの学校】** (木曜 午前10時~午後4時) 松田浩一神父

2023年  
2/2 3/2

**【奉献生活者の黙想】** (午後5時~午前9時) 一般可

2023年  
**追加** 3/6 (月) ~ 3/14 (火) 中川博道神父

**【祭日のミサに参加するために】**

**\*<クリスマス>**

12/24~25

チェックイン午後4時以降可、チェックアウト午前11:30  
(講話なし 食事つき)

－その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします－

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間にお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。またタオル類も準備してありますが、コロナ感染症対策のため各自専用分を持参してもかまいません。

現在は感染防止策のため人数制限をしていますので黙想参加希望の方は早めのお申し込みをお勧めします。

また参加の際には三密回避などを心がける様ご協力お願い申し上げます。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-66-1191

E-Mail: [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

## 新企画！

松田浩一神父（カルメル会）による黙想会

### 「祈りの学校」

キリスト教の祈りを学び、実践する企画です。イエス様から教会へ伝承された「祈り」に基づいて、そして教会の中で培われた「祈り」について学んでいきます。



すべて木曜日 10:00～16:00

5/19 — 6/2 — 7/7 — 9/1 — 10/13 — 11/3 — 12/8

2023年 1/12 **終了** 2/2 3/2

持参するもの・・・筆記用具・ロザリオ

お問合せ・お申込みは、FAX、ハガキ、E-mailにてお願いします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

カルメル会宇治聖テレジア修道院（黙想）

Fax 0774-66-1191（聖テレジア修道院（黙想）専用）

E-mail : [teresiauji@mountain.ocn.ne.jp](mailto:teresiauji@mountain.ocn.ne.jp)



## 諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター  
ノートルダム・ド・ヴィ  
サダナ瞑想  
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。  
記載には注意を期しておりますが、  
詳細は各問い合わせにご照会下さい。  
よろしくお願い致します。

## 真命山 2023年 — 祈りの集いのご案内

### テーマ 聖性への招き

召し出してくださった聖なる方に倣って、あなたがた自身も  
生活のすべての面で聖なるものとなりなさい（1ペトロ1，15）

毎月第2木曜日（10:00～15:00）  
予約は前日の16:00まで

- 1月12日 励まし、寄り添ってくださる諸聖人（コデノッティ・クラウディオ神父）  
2月 9日 福者高山右近と日本の殉教者（コデノッティ・クラウディオ神父）  
3月 9日 十字架の聖パウロ（ソットコルノラ・フランコ神父）  
4月13日 マグダラの聖マリア（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
5月11日 聖シャルル・ド・フーコー（コデノッティ・クラウディオ神父）  
6月 8日 三位一体の聖エリザベト（ソットコルノラ・フランコ神父）  
7月10日 聖マクシミリアノ・マリア・コルベ（園田善昭神父）  
8月 休み  
9月14日 コルカタの聖テレサ（Sr. マリア・デ・ジョルジ）  
10月12日 幼きイエスの聖テレーズ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
11月 9日 聖ガイド・マリア・コンフォルティ（コデノッティ・クラウディオ神父）  
12月14日 聖フランシスコ・ザビエル（コデノッティ・クラウディオ神父）



・個人またはグループでの黙想会  
研修会も歓迎いたします（要予約）

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186

# 講話と祈りのつどい

コロナウイルス感染の広がりにより、  
予定しておりました「講話と祈りの集い」の開催を  
現在保留にしております。

状況の推移を見守りながら開催の有無を  
当会のHPに掲載いたしますので、  
そちらをご覧くださいいただければ幸いです。

担当 中山真里

\*\*\*\*\*

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail [notredamedevie.japan@gmail.co](mailto:notredamedevie.japan@gmail.co)

# サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	2/22(水)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	カルメル修道会上野 毛修道院・黙想の家 (世田谷区上野毛)	来間(くるま) 裕美子※ sadhana12378@ yahoo.co.jp
フォローアップ 新Ⅰ	3/5(日) 9:30-16:00	サダナ チーム	援助修道会 リヒト宣教室(市ヶ谷) ※ミサは無し。イスでの 黙想です。	来間(くるま) 裕美子※
札幌サダナⅠ	3/18(土)9:30- 19(日)18:00	Fr植栗	札幌カトリックセンタ ー(札幌市中央区)	本間 攝子 080-3260-1864 不在時は、山崎 有紀 090-4720-2157
札幌サダナⅡ	3/20(月)9:30- 21(火祝日)	Fr植栗	同上	同上
サダナⅠ	3/30(木)17:30- 4/2(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会・町田黙想の家 (町田市本町田)	来間(くるま) 裕美子※

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、  
090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel & Fax : 042-325-7554

- フォローアップおよびリピーターへの参加…サダナⅠを終えていること。
- 入門Cへの参加…入門Aまたは入門Bを終えていること。



## 念祷の集い

～沈黙の内に神を求めて～

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室

時間：以下の木曜日

14：00～16：00(講話と念祷)

主催：慈しみ深き会



くのり

指導：九里 彰 神父（カルメル修道会）

### 中止のお知らせ

#### 2023年度予定

予定しておりました「念祷の集い」は、コロナウィルス感染のため、開催を中止しております。秋口からの再開を予定しておりましたが、いまだ感染の終息が見えない状況の中、今しばらく中止させていただきます。

再開する場合は、この紙面上にて再度お知らせいたします。

連絡先：篠原 三恵子

Tel:042-473-6287

e-mail: mieko.shinohara@gmail.com

# 『靈性センターニュース』

## \* 郵送お申込みのご案内 \*

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。  
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。  
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、  
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座  
へお振込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184  
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、  
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。  
また、郵送お申込とは別に、ご献金もお願いしております。  
その場合は、「献金」とご記入お願い致します。  
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12  
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」  
Tel:0774-32-7456  
Fax:0774-32-7457  
[reisei@carmel-monastery.jp](mailto:reisei@carmel-monastery.jp)

## インターネットから読める様になりました

『靈性センターニュース』バックナンバーを  
宇治カルメル会のホームページに掲載してます。

PC版のみ PDF形式

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」をクリック

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会  
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

## あしがき . . . つぶやき . . .

ウクライナへのロシアにおける軍事侵攻が始まって、やがて一年になろうとしています。毎日のように流れてくる破壊的で悲惨な情報に、わたしたちの心は痛み続けます。共同体のミサの結びに、マリア様の取次によって戦争の終結を祈り続けています。

この期間、たびたび思い出すことは、教皇フランシスコが、バチカンの聖ペトロ大聖堂で、昨年3月25日「神のお告げの祭日」に合わせ、共同回心式で、ロシアとウクライナをマリアの汚れなき御心に奉献されたことでした。

この戦争の痛みを感じるたびに、わたしたちが真に神に立ち帰るべきことを問い続けられています。

今月号の巻頭言の教皇様のお言葉は、あらゆる争いの根にあるものを思い起こさせます。あらためて、ウクライナの惨状からの解放とロシアの回心を祈ることは、わたしたちが先ず、「自分自身から他者へ向けて抜け出させるとき」であることを生きることと受け止めたいと思います。2月22日（灰の水曜日）から始まる四旬節がわたしたちカトリック教会にとって真の回心の時となりますように願わずにはいられません。

母マリアよ、わたしたちの願いを聞き入れてください。

海の星であるマリアよ、戦争の嵐の中でわたしたちを難破させないでください。

新しい契約の櫃であるマリアよ、和解への計画と歩みを奮い立たせてください。

「天の大地」<sup>1</sup>であるマリアよ、神の調和を世界にもたらしてください。

憎しみを消し、復讐をしずめ、ゆるしを教えてください。

わたしたちを戦争から解放し、核の脅威から世界を守ってください。

ロザリオの元后、祈り愛することが必要であることを呼び覚ましてください。

人類家族の元后、人々にきょうだい愛の道を示してください。

平和の元后、世界に平和をお与えください。

(ロシアとウクライナをマリアの汚れなきみ心に奉献する祈り)

(中川博道 o.c.d.)

